

女性技術者からひとこと

基礎地盤コンサルタンツ(株)
樽石 静

マエオキ;「女性技術者からひとこと」タイトルからしてセクハラ(被害妄想一大)。「技術者」というカテゴリは広いけど、私が該当するか否かは疑問です(「女性技術者から他人事(ひとごと)」になってしまう)。しかし「女性」であることは間違いありません(?)。ということで「某女性の視点」というテーマで語らせていただきます。

マイブーム;日本国にスカッシュが上陸した年に、この世に生を受けた。別にそのことがきっかけでハマッタ訳ではないが、最近スカッシュというスポーツに取り憑かれている。Japan Squash Associationによると、スカッシュとは『四角い部屋の中で、交互にボールを打ち合う競技。スカッシュコートは縦9.8m、横6.4m、高さ約5.6m以上の4面の壁と床に囲まれたスクエアなスペース。白い壁には赤いラインが引かれていて、その有効範囲内にボールをあててプレイする。テニスの1/4のスペースで2倍の運動量が得られる。』とある。

アピール;スカッシュは、テニスと異なり閉じられた空間でプレイするため、相手が邪魔になってボールが打ち返せない場合は、プレイを止めて審判に「レット プリーズ」とアピールする。審判は邪魔になった程度や、ボールの状況等を判断して、①「レット」=やり直し、②「ストローク」=妨害とみなしポイントを与える、③「ノーレット」=妨害とみなさず、の何れかの判定をする。この「レット プリーズ」とアピールするのがとっても新鮮だった。デビュー戦で審判から「ちゃんとアピールするように」と注意を受けた。「女性技術者からひとこと」という特別枠のシリーズがあるのも、女性のアピールが足りないためかもしれない。

オジサマ;スポーツクラブの「エアロビクス」で、多くのオジサマ方が汗を流している光景を見る。ここから先の記述は「逆セクハラ」に相当するかもしれないが、中年太りのオジサマのレオター

ド姿はいただけない。し、臭い。趣味・ダイエットなどさまざまな目的でエアロビをされているのだろうが、動き完璧・スタイル抜群のお姉さま&おばさまの中で踊るオジサマ群は強烈。もちろん、全ての男性を指して「いただけない」としているわけでない。中にはムキムキマンもいるし(これも・・・ちょっと)。エアロビの大会に向け、平日の夜に練習されている姿を見かけると、この人達の職業や家庭などの背景を勝手に想像してしまう。でも、そんな人目を気にせず、楽しそうに踊っている姿はうらやましい。本当にうらやましい。けど、やっぱり、中年太りのオジサマのレオタード姿は、気持ちワルイ。いや、ヒトを性別・見たく目で差別してはイケナイ!(暴言をお許してください)。

オバサマ;サウナはスポーツクラブの楽しみの一つである。だいたい1回あたり5分から10分サウナ室でじっとしなければならぬ。サウナでの長話は灼熱地獄の長い時間を気分的に短くしてくれる魔法だ。話題といえば、嫁の話、姑の話、会社の話、子供の話、ペットの話、夫の話、彼氏の話などなど。女の人っていろんな場所でいろんな役割を演じなければならないのね、と、つくづく感心してしまう。主役はいったい誰なのでしょう?こういう発想は、きっと私がワビしい青春を過ごしている(過ごした)証なのかもしれない。当然、主役は〇性です。

コドモ;これまたスポーツクラブでの話で恐縮であるが、平成生まれの男の子とお友達になった。スカッシュ歴は私より長く、もちろん腕前も上である。大人のイケナイところで、その子に「私の年齢は二十歳よ」と偽っている。それを信じるとしてもカワイイ子なのだ。しかし、女性に「ブス」と言うのである。これに対し私なりの教育を試みましたが、全く効果なし。コドモの頃から「男は女性を大事にしなくてはならない」と洗脳しておけば、女性労働者が働きやすい環境が整うかもしれない、という私の長期遠大計画

は達成しそうにない。それに、女性同士でも恐ろしいことはありそうだし……(オバサマの段落参照)。

女性技術者はタイヘン?;現在、建設業における女性技術者の割合ってどの程度なのでしょう?いずれにしろ男性技術者数>女性技術者数の関係には変わりがないと思いますが。男性技術者はさほど優秀でなくても何とかなるけど(問題発言?)女性技術者は優秀でなければならぬ傾向にあるように思います。どうしてそう思いこんでしまうのでしょうか?周囲のプレッシャーでしょうか?また、優秀って、何ではかるのでしょうか?やはり、資格でしょうか?

タイムリー?;雅子さまに女の宮様がお生まれになりました。愛子さま。

オカアサン;育児の負担は女性にのしかかっているように見える。この話題については経験がないので他の方におまかせいたします。大変、大変、とかいっても、男尊女卑の全盛期に比べるとかなり「マシ」になっているのでしょうか。「マシ」ということは、まだまだ改善の余地アリということ?

ジブン;某占いによると「大器晩成型」とあった。ちなみにその占いによると私と同じ相をもつ芸能人は「宇多田ヒカル」ということである。それ以上「大器」になってどうするウタダ。現時点で自分を評価すると、「う〜ん」。このような原稿書く資格なし。何をやっても中途半端。

「これだから女は」といわれる典型的な標的。信用されない。指示通りにやってもらえない(ヒトがいる)。資格教材販売のセールスマンの声も「あ、女性の方ですか」とトーンダウン。ああ、そうですか(独り言)。「女性だからねえ」というところにつけ込んでサボってしまう。暗い。カワイゲがない。言動がきつい。これって典型のお局様?就職したばかりの頃は、こんなじゃなかったのに。別に「女性」を主張するためにココへ飛び込んだわけでもないし。地道に生きているだけだし……これ以上書くと職場環境云々の領域に入ってしまうので、強制終了。人生はリセットできないからなあ。

オチ;冒頭で「女性技術者からひとこと」のタイトルはセクハラだと書き、「女性技術者」というテーマから大きく外れたコトを書いてしまった。しかし、このシリーズに投稿されている他の皆様は「参考になるワ」という原稿を書いておられます。コレはあくまでも「某女性の視点」なので、「こんなヒトもいるのね」と軽く流していただきたい。そう、世の中にはいろんなキャラクターが溢れている。どんな過程を歩んできたのかは人それぞれ。「この道」に足を踏み入れてしまった以上、みんながんばっているのだから。と、しまいには開き直ってしまいましたが、このシリーズが今回で終了になってしまわないことを切に願います。